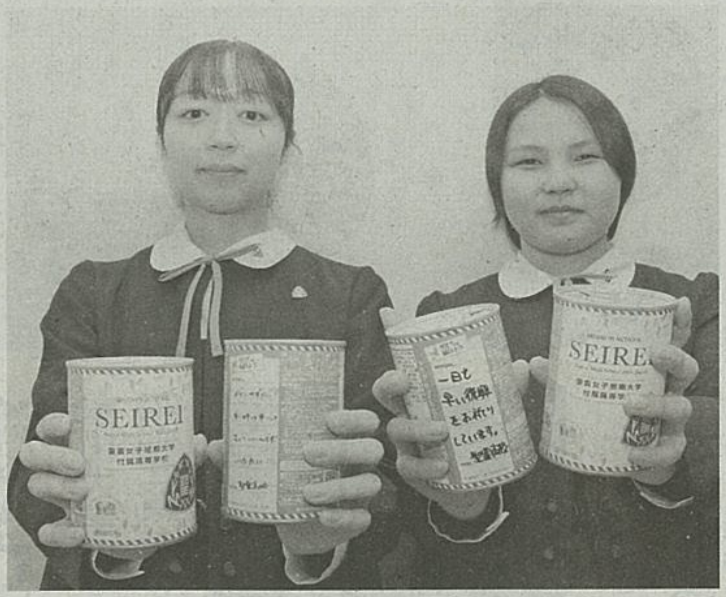
2024年2月15日（木曜日）の読売新聞に
聖霊女子短大付属高校の
「能登半島地震被災地支援」について掲載されました！

（第3種郵便物認可）　2024年(令和6年)2月15日（木曜日）　読売新聞

缶詰パン 能登被災地へ

聖霊女短大付 手書きの言葉添え



被災地に送る缶詰を手にする斎藤さん（左）ら（13日、秋田市の聖霊女子短大付属高で）

能登半島地震の被災地を支援しようと、聖霊女子短大付属高校（秋田市）が13日、災害備蓄用に保管していたパンの缶詰約220個を被災地に贈った。

缶詰は、通常は賞味期限を迎える1年前に海外の飢餓に直面する地域などに送ることができる支援セットとして「パン・アキモト」（栃木県那須塩原市）が製造販売している。

「救缶鳥（きゅうかんちょう）」との商品名で自治体や企業、学校などに販売され、同校ではこれまでに2回、ロシアの侵略で多くの避難民が発生したウクライナへの緊急援助として計400個余りを届けたという。

今回、生徒の希望で能登の被災地に送ることが決まり、3年生が缶のラベルに「健康に気を付けて、一緒に頑張りましょう」「辛（つら）い時は辛いって言っていいんです」などと手書きのメッセージを書き込んだ。

生徒を代表して缶詰を運送用の車に積み込んだ斎藤ひのでさん(17)は、昨年夏の記録的大雨で同校が被災した経験を踏まえ、「復旧作業には体力がいるとわかった。パンでエネルギーをチャージしてもらいたい」と話していた。